

## ■平成 23 年度 第 1 回新宿区環境基本計画専門部会（平成 23 年 11 月 1 日）議事要旨

検討概要：専門部会委員の紹介、部会長・副部会長の選出、策定スケジュールについての説明、現行基本計画における取組みと進捗状況の説明、基本計画の改定に向けての意見交換

### 1 新宿区環境基本計画策定専門部会設置について

#### (1) 環境審議会会長挨拶

- ・丸田会長より挨拶。

#### (2) 専門部会委員の紹介

- ・事務局より設置要綱の説明
- ・自己紹介形式による専門部会員及び部会員以外の事業者、学識経験者、事務局の紹介。（欠席者：崎田委員、小野委員、瀧口委員、工藤委員の 4 名）

#### (3) 部会長・副部会長の選出

- ・環境審議会要綱に基づき、丸田環境審議会会長より野村委員を指名。
- ・副部会長には、野村部会長より勝田委員を推薦。  
⇒了承
- ・野村部会長及び勝田副部会長より挨拶。

### 2 新宿区第二次環境基本計画の策定について

#### (1) 新宿区第二次環境基本計画について

- ・現行の「新宿区環境基本計画（改定）」の冊子を用い、事務局より概要及び経緯などを説明。

#### (2) 事前調査委託受託事業者について

- ・事務局より事前調査委託業務の受託事業者の紹介。

#### (3) 策定スケジュールについて

- ・資料 3 を用い、事務局より説明。

#### (4) 現行基本計画における取組と進捗状況、社会的動向について

- ・資料 4～資料 7 を用い、受託事業者より説明。

（質疑応答、意見交換）

- ・資料 6 の 1 ページに示されている二酸化炭素排出量の数値の出し方などの根拠は何か。（部会員）  
⇒都のデータを活用しながら、62 区市町村共通の標準的な算定手法により算出した数値である。（事務局）  
⇒計算上の推計値ではあるが、比較的精度は高く、議論の根拠となる数値である。（部会員）
- ・目標が達成できていないものについて、数値設定の段階でそもそも無理があったのか、施策の進行上でなんらかの問題があったのかをまず整理した方がいい。第 2 次計画を検討していく上で、計画の枠組みはそのまま施策のあり方などを考える方法や、枠組み自体を変えるという方法もあるが、その議論の根拠となるものである。（部会員）
- ・太陽光発電システムにより CO<sub>2</sub> 削減が進んでいるとあるが、システムを作る時に発生した CO<sub>2</sub> の増加などは見込んであるのかなどにも着目した方がいい。（部会員）  
⇒製造時の CO<sub>2</sub> は、産業部門として見込んでいる。（事務局）
- ・環境基本計画を見直すにあたって、数値目標の達成や未達成要因を検証することも必要であると

思うが、個別施策を実施することにより、全体として個別目標がどこまで達成されたかという点も検証する必要がある。そういうものが見える化しないと、どこが出来ていて、どこが出来ていないかという課題も見えてこない。(部会員)

- ・10年前の策定時の時代は、環境問題に取り組むということは、いわば初めての取組みであったと思うが、この10年でやっとみんなで議論できるような土壌が育ってきた。そのような中で、10年先の環境像を考える上で、その当時の環境像をベンチマークとした分析がそのまま検討材料として使えるのかは疑問である。(部会長)
- ・達成できたものを継続してやっていきたいと思いますとか、達成できなかったものをどうしようというセルフチェックだけでなく、例えばニューヨークや姉妹都市などとの比較など、グローバルな分析手法を用い、今後、チャレンジングな環境都市像を設定するという方法もある。(部会長)
- ・他都市事例を参考にするのはよいが、新宿と同規模など都市特性を勘案する必要がある。(部会員)
- ・P D C AのC(チェック)を行い、A(実行)に持ち込むためには、あらかじめ、適切なチェック指標を設定しておかないといけないが、第2次計画ではそこまで踏まえたP D C Aサイクルまで持ち込むのかということ議論しなくてはいけない。(部会員)
- ・次回の専門部会では、第2次計画を検討していく上で、計画フレームや個別の指標など何を議論してほしいのか、区民討議方式など情報公開の方法や区民とのコミュニケーションはどうやっていくのか、前回の計画時ではこうやっていたなど、議論できる素材を事前に用意していただけると有り難い。(部会長)
- ・施策の体系を継続していくのか、それともがらっと変えるのかなど、議論すべきことが盛りだくさんで、骨子を6月までに決めるまでに部会が2回では時間的に厳しいと思う。宿題と言う形でもいいので、事前に資料をいただきたい。(部会員)
- ・基本構想など区の上位計画の中で環境基本計画はこの部分を担当するんだよという方法もあるし、10年後、20年後を見据えたバックキャスト的な手法を用いて、将来像を検討する方法もあるが、将来像や目標を検討していく上で、やはりなんらかの測定可能な指標を盛り込んだ方が次の見直し、次の次の見直しに生きてくると思う。(部会員)
- ・社会的動向など、最近のトレンドなども加味する必要がある。(部会長)
- ・フレームについては、区の基本構想をベースとすることを基本としたいが、もう少し議論できる資料を次回までに用意したい。評価指標についてもどのあたりのものまで盛り込めるのかということ再度整理したい。区民とのコミュニケーション手法については、前回策定時の様子や区民討議の手法などについても整理したいと思う。(事務局)
- ・部会の下にワーキンググループなどの下部組織は考えていないか。(部会員)  
⇒ワーキンググループの設定は考えていないが、公式にやるかどうかは別として、部会長などとの事前打合わせは適宜やっていきたいと思う。また、場合によっては専門部会を増やすことも考えられる。

#### (5) その他

- ・次回の開催時期は若干ずれ込む可能性があるが、なるべく早い段階での日程調整を行う。(事務局)

以上